

市民啓蒙、救急隊活動、病院での初療および院内発症をシームレスに連携する取り組み

谷崎 義生¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

群馬県では脳卒中の治療成績向上に必要な人材養成のため、2008年から救急隊対象のPSLS (Prehospital Stroke Life Support) コース、2009年より病院職員対象のISLS (Immediate Stroke Life Support) コースを継続開催し、PSLSは97回開催2733名が受講、ISLSは41回開催1091名が受講した。群馬コースでは、市民と救急隊と病院の初期診療および専門的治療の間をシームレスに連携する緊急度判定システムに準拠した運営に移行しつつある。脳卒中でも、緊急度は最初にあらゆる疾患に共通の心肺蘇生が必要か否かを、引き続いて脳疾患固有の脳ヘルニア徴候有無の2段階で評価する。PSLSとISLSは最初の2時限で2段階の緊急度判定と必要な治療を研修する。病院前救護と初療では脳ヘルニア徴候と血栓回収術適否（群馬ではELVOスクリーン）がキーワードである。群馬県での脳卒中発症後から4.5時間以内に来院する患者は21%で、市民啓蒙が重要である。日本脳卒中協会群馬県支部と群馬脳卒中救急医療ネットワーク共催の市民公開講座では、最新の救急隊活動を寸劇で供覧、CPSSを中心に市民啓蒙に努めている。院内発症への対応は、意識の評価、CPSS、ELVOスクリーンが重要である。群馬コースは各ガイドブックに準拠して、ISLSはディレクターらが、PSLSの改訂版は救急隊らが動画などコンテンツを作成しているので、コース受講後の個人の行動変容をそれぞれの組織の業務改善に結びつけるツールとして利用した取り組みを開始しつつある。発表では取り組みの概要と今後の課題について報告する。